

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
M3440402		臨床実習 (Clinical practice)					臨床医工学コース専門分野		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	7	4	医学部先進医療科学科	前期	他	日本語			複数(共同)						
担当 教員	氏名 丹下 佳洋、道越 淳一、梅田 涼平														
	E-mail 内線														
授業 の 概 要	本実習は、病院内における血液浄化療法関連実習、呼吸療法関連実習、循環器関連実習(体外循環業務・カテーテル関連業務)、治療機器関連実習(静脈路確保関連行為を含む)及び医療機器管理業務実習を主体とした臨床における医療機器の点検や医療現場で遭遇する臨床倫理問題について理解しながら指導者の下に実施する。また、生命維持管理装置の適応疾患と病態を関連づけ、科学的思考に基づいた論理的思考法を実践することで、医学・医療の基盤を支え、多職種によるチーム医療に貢献できる能力を身につける。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	各種治療機器の原理及び操作について理解するとともに、保守点検について指導者の下に実施する。														
目標2	生命維持管理装置の適応疾患と病態について関係づける。														
目標3	清潔操作について実施する。														
目標4	多職種とのコミュニケーション能力を実演する。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							3	1	2	2			2		
授業の内容															
1	実習施設：大分大学医学部附属病院(手術室、集中治療室、血液浄化センター、ME機器センター、カテーテル室)														
2	実習科目：臨床実習において学生に実施させる行為及び、臨床実習指導者の要件については、指定 規則、指導ガイドラインに準ずる。														
3	実習内容：														
4	【血液浄化センター】血液浄化療法関連実習(1週間)														
5	【集中治療室/手術室】呼吸療法関連実習(集中治療室と手術室での実習を含む) 循環器関連実習(カテーテル関連業務の実習を含む)(2週間)														
6	【集中治療室/手術室】循環器関連実習(集中治療室と手術室における医療機器の操作と管理・静脈路確保関連行為の実習、及び人工心肺装置・補助循環)														
7	【集中治療室/手術室】治療機器関連実習(内視鏡手術システムの実習を含む)														
8	【ME機器センター】医療機器管理業務実習														
9	【手術室、他】その他の実習(見学実習、臨床支援技術実習、振り返り等)														
10	【大学講義棟】学内実習(臨床実習前後の技術・知識の到達度評価)														
11	【大学講義棟】学内実習(実習中後の振り返り等)														
12															
13															
14															
15															
ラ ア ク ニ テ ィ ン グ ブ	A:知識の定着・確認	A：実習前後の技術・知識の到達度を評価する。				工 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換	B：実習前後のグループワーク及び実習報告会にて意見交換を行う。													
	C:応用志向	C：実習前後の評価について自己分析を行い、医療人としての目標に繋げる。													
	D:知識の活用・創造	D：実習で得た知識を実習報告会でアウトプットすることで													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	臨床実習の事前指導として、実習の目的や実習内容についてのオリエンテーションを行う。また、実習に対する留意点や実習中の感染症や事故等への対応方法について指導する。実習テーマに沿った治療・医療機器について事前調査し、疑問点を明らかにすることで、実習時に実習先指導者に確認するなど疑問点													
	事後学修	実習指導者から与えられたレポート課題に加え、実習時に取り扱った機器や適応疾患に関する事後学習を行う(161h)。													
	想定時間合計	161													
教科書	必要に応じ適宜紹介する														
参考書	実習中、適宜紹介する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		実習指導者の評価及び実習報告会での報告内容を総合的に判断して単位認定を行う。	100%									
注意事項	入学時に、麻疹・風疹・水痘・ムンプスの抗体価検査を実施し、その結果が陰性の場合には、予防接種等の感染予防措置を実施する。また、実習中に発生した事故により、養成施設が法律上の賠償責任を負った場合に備え、養成施設側が被る損害を補償する賠償責任保険に加入する。											
備考	1 臨床工学技士を目指す学生が臨床実習中に実施すべき基本的行為は、患者の安全確保がされる前提での実施をするためにも、学生が点検や組立て・準備などを行った医療機器をそのまま臨床へ提供することはせず、必ず指導に当たる者が自らの責任のもとで確認、または再度実施する。 2 臨床工学技士の											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	丹下 佳洋（臨床工学技士）、道越 淳一（臨床工学技士）、梅田 涼平（臨床工学技士）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	溝口 貴之（臨床工学技士）											
実務経験を いかした教 育内容	臨床経験5年以上かつ各指導内容に対応する学会認定資格等を有する者が指導を行うように依頼する（透析技術認定士、体外循環技術認定士、呼吸療法認定士、認定医療機器管理臨床工学技士、等）。											